

日本プロボクシング産業衰退に関する考察

A study about lose popularity in Japan professional boxing industry

1K04B156-2

鳥飼 祥平

指導教員

主査 宝田雄大先生

副査 太田章先生

【序論】

1952年に白井義男氏が日本人として初のプロボクシング世界王者になってから、これまでに日本からは55人の世界王者が誕生している。また、現在日本のジムには6人の世界王者が存在しており、この数字はともに東洋太平洋地区で最多の人数である。一見すると日本のプロボクシング界は隆盛を誇っているのではないかという錯覚にも陥りかねないが、実際には決してそうとは言えない。

試合会場へ足を運ぶとチケットが売れず空席が目立つ興行を多く目にし、世界タイトルマッチにも関わらず、視聴率が望めないという理由からかテレビ放送が無いことも少なくない。

戦後、高度経済成長期に多くの時代を代表するスポーツヒーローを生み出し、人々を熱狂させてきたプロボクシングは、一体いつの頃からこれほどまでに人気を衰退させ、マイナースポーツへと変わってしまったのか。ここ数十年の間で相対的にも、絶対的にもプロボクシングが人気を落としていることは疑いようも無い事実である。

その原因として時代ごとの景気の悪さや、他のスポーツ、娯楽の多様化といったボクシング界だけでは対応出来ない外的要因と、ボクシング界が抱える内的要因に大別される、私は、現実の人気衰退の原因はプロボクシング界が抱える内的要因にあると考えた。今回私はそうしたプロボクシング界が抱える課題や問題などの内的要因を中心として分析し、どうすれば再度日本のプロボクシング産業に光が当たるのかについて考察する。

【研究目的・研究方法】

本研究は文献・資料を中心として以下の2点を研究することを目的とした。

- ・なぜ日本のプロボクシング産業が衰退に至ったのか、その経緯を明らかにすること。
- ・今後、日本のプロボクシング産業を活性化させる為にはどうするべきかを具体的に考察すること

また、この2点を踏まえた上で、現在日本のプロボクシング産業が抱えている問題を考え、これからのプロボクシング産業のあり方についても考察する。

《第一章》日本のプロボクシング産業

日本のプロボクシングを統轄するための組織である日本ボクシングコミッションの役割と今後の課題、また日本プロボクシングを支えてきたジム制度と、その問題点を記した。

《第二章》プロボクシング産業の発展とテレビ放送

プロボクシングが発展してきた背景にはテレビ放送の力が大きい。二章ではテレビ放送のプロボクシング産業に与えた影響を記すとともに、プロボクシングとK-1の視聴率構造を比較することで、ボクシングに足りないのは何かについて考察し記述した。

《第三章》プロボクシング産業の人気が低迷した理由

プロボクシングの人気が低迷した最たる理由は、単純に面白くなくなったからである。では、なぜ面白くなくなったのか。

私はその理由として、

- ・プロモーターライセンスの普及がもたらした興行数の増加
 - ・ルール変更がもたらしたスリルの低下
 - ・世界戦におけるKOの減少
- の3点を原因として考え、記述した。

《第四章》亀田問題を考える

2007年10月、亀田大毅の世界戦における反則行為を発端に社会問題へと発展した「亀田問題」に関して、亀田問題がボクシング界へと与えた影響とこの問題を契機にどのようにボクシング界がどう変わっていくべきかについて記述した。

【今後のプロボクシング産業のあり方の考察】

本研究を通じて、日本のプロボクシング産業が内的要因によって自滅に近い形で人気を衰退させていった背景が分かった。現在亀田問題の影響もあり、プロボクシングは人気だけでなくスポーツとしての信頼性も失ってしまっている。一度失った人気と信頼性を取り戻すためには、プロボクシングに関わる全ての人間が犠牲を払い、努力しなければならない。その先に、好カードや競技的魅力的の向上といった結果が生まれ、人気回復への光を見出すことが出来るのではないかと思う。